

2017年6月30日

## 2017年度「大学院生・若手研究者海外学会発表支援制度」の支援対象

日本社会心理学会  
会長 浦光博

2017年度「大学院生・若手研究者海外学会発表支援制度」の支援対象について、規程に従って下記のように選考を行いました。研究支援担当常任理事・唐沢かおり氏（東京大学）を委員長とし、齋藤和志氏（理事：愛知淑徳大学）、池田浩氏（理事：九州大学）、小林知博氏（神戸女学院大学）、繁榊江里氏（青山学院大学）の各氏を委員とする選考委員会が構成され、慎重な審議をお願いしました。その結果、大学院生枠の応募件数9件の中から4名を、また若手研究者枠の応募件数3件については応募者全員を、それぞれ支援対象候補者として推薦することに決定しました。これについて、常任理事会および理事会にて審議の後、承認されました。ただし、大学院生枠の支援対象者4名のうち、お一人から辞退の申し出があり、最終的な支援者は下記に発表する3名となっています。

なお支援金額は、規定に従い「航空運賃の半額＋学会開催日数×5000円」とします。支援対象者の皆さんは、発表の完了後、支援申請金額の根拠となる書類を添えて速やかに学会事務局に申請して下さい。

<支援対象者（五十音順、敬称略）、発表題目、発表学会>

### 1. 大学院生枠

- ・井関紗代（いせきさよ）名古屋大学大学院情報学研究科 D1

Feeling like this is mine: Psychological ownership mediates effects of haptic imagery and effectance motivation on willingness to pay. (11<sup>th</sup> International Conference on Cognitive Science. Taipei, Taiwan.)

- ・喜入暁（きいれさとる）法政大学大学院人文科学研究科 D3

Psychopathy and relatively deprivation.

(Society for Scientific Study of Psychopathy. Antwerp, Belgium.)

- ・中川裕美（なかがわゆみ）広島修道大学大学院人文科学研究科 D2

実在集団における内集団ひいき—社会的アイデンティティ理論と閉ざされた一般的互酬仮説の外的妥当性の検討—

(The European Conference on Psychology and the Behavioral Sciences 2017.  
Brighton, UK.)

## 2. 若手研究者枠

- ・稲葉美里 (いなばみさと) 関西大学経済実験センター・ポストドクトラルフェロー  
Which type of sanctioning institution is the most attractive and effective?  
(The 17<sup>th</sup> International Conference on Social Dilemmas. Taormina, Italy.)
- ・野崎優樹 (のざきゆうき) 京都大学大学院教育学研究科・特定講師  
Applying the process model of emotion regulation to interpersonal emotion  
regulation among a working population.  
(European Association of Work and Organizational Psychology 2017. Dublin,  
Ireland.)
- ・山脇望美 (やまわきのぞみ) 名古屋大学大学院教育発達科学研究科・研究員  
Relationship between autistic traits and criminal offence in delinquent  
juveniles.  
(Society for police and criminal psychology. San Diego, USA.)

以上